

第二次小平市教育振興基本計画の令和7年度主要事業

小平市教育委員会では、令和5年2月に、令和14年度までの10年間で小平市の教育が目指すべき方向性とその実現のための施策を明示し、これらを総合的・体系的に推進するものとして、第二次小平市教育振興基本計画（計画期間 令和5年度から令和14年度まで）を策定しました。

第二次小平市教育振興基本計画では、前計画に掲げた目指す人間像を引き続き掲げることとし、その実現に向けて設定した基本理念に基づき、3つの教育の目標を定めています。

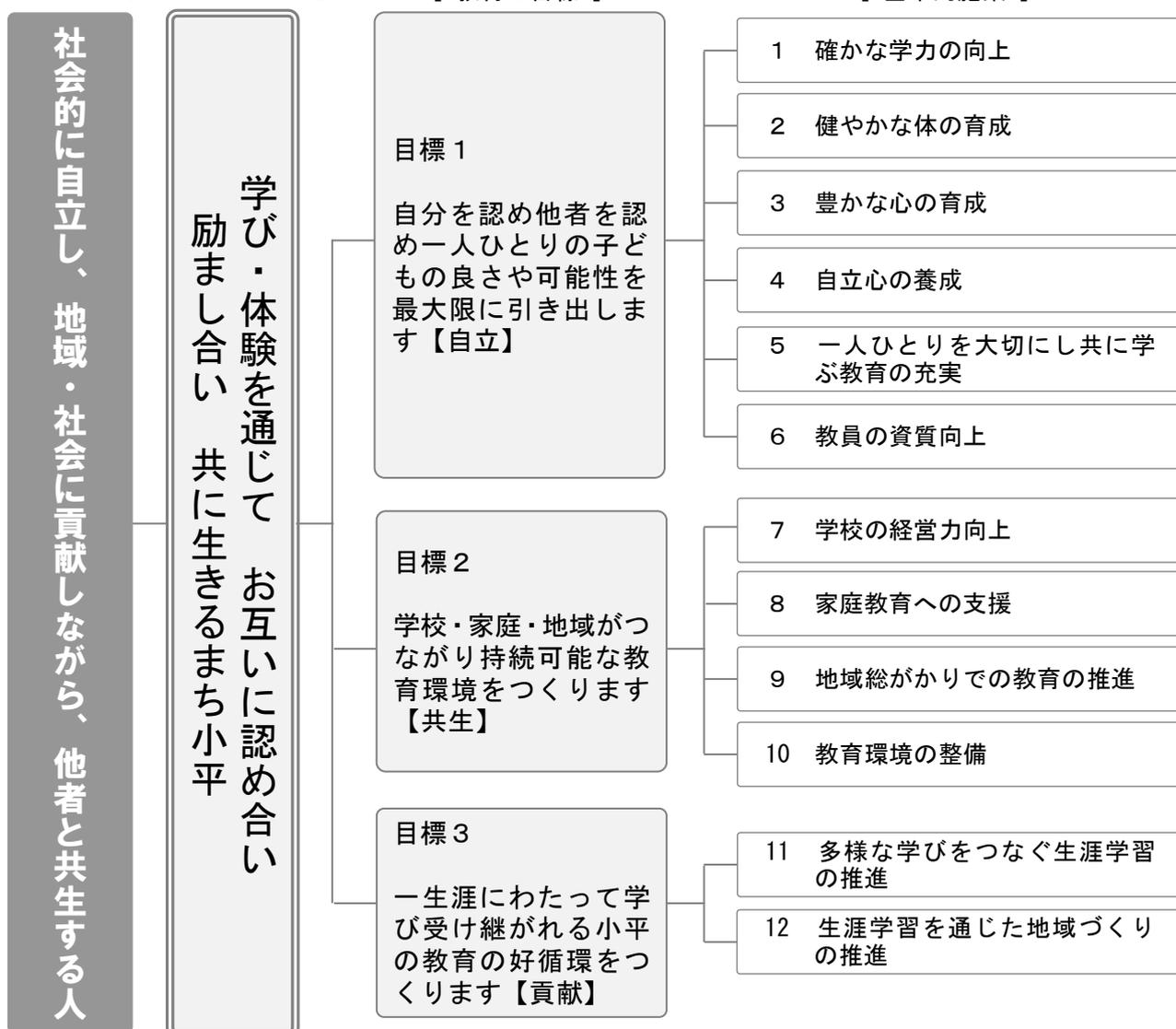
令和7年度においては、この3つの教育の目標の達成に向け、12の基本的施策ごとに主要事業を定め、計画の推進を図ります。

[計画の体系図]

[目指す人間像] [計画の基本理念]

[教育の目標]

[基本的施策]



また、本計画とあわせて、個別計画である「小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）前期計画」、「第5次小平市こども読書活動推進計画」を推進します。

1 確かな学力の向上

【令和7年度に向けての課題】

➤ 学習指導要領においては、子どもたちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。

小平市では、児童・生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを目指しています。

また、各学校においては、児童・生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと、②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくカリキュラム・マネジメントが求められています。

➤ 児童・生徒の個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、一人1台の学習者用端末を効果的に活用した授業改善が求められています。

➤ 「第5次小平市こども読書活動推進計画」に基づき、学校図書館との連携に力を入れていきます。学校図書館の更なる活性化支援及び調べ学習支援をより充実させるため、図書館の情報拠点としての機能強化が求められています。

➤ こどもの読書活動を推進するには、より早い時期から読書に親しむ環境を整える必要があります。また、中学生・高校生に対して、読書への関心を高める取組が必要です。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|------------------|--|
| 1 | 拡充 | 授業支援システムの全学年への導入 | 児童・生徒の協働的な学びのより一層の充実を図るため、授業支援システムを市立小・中学校の全学年に導入する。 予算額：17,026千円 |
| 2 | 継続 | 指導者用デジタル教科書の導入 | 確かな学力の向上を図るとともに個別最適な学びの充実を図るため、市立小・中学校に国語、算数・数学、英語の指導者用デジタル教科書(クラウド配信版)を導入する。 予算額：5,562千円 |
| 3 | 継続 | デジタル利活用支援員の配置 | 各教員の抱える個別の課題への対応など、デジタルの専門性に基づく授業支援等により、学習者用端末のより実践的な利活用やデジタル教科書及びデジタル教材の更なる利活用のサポートを行う。 予算額：3,858千円 |
| 4 | 拡充 | 学習補助員の配置 | 児童・生徒の学校生活や学習指導の支援等を行う学習補助員を配置する。各学校の教育活動の支援を行うほか、一人ひとりの特性に応じて学習活動のサポートを行う。 小平第二中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級に配置するとともに、中学校の通常の学級への補助員の配置時間数を増加する。 予算額：199,722千円 |
| 5 | 継続 | 中学校放課後学習教室の実施 | 地域の人材を活用した放課後等の学習支援として、市立中学校全校で放課後学習教室を実施する。 予算額：3,700千円 |

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|-----------------------------|---|
| 6 | 継続 | 第5次小平市こども読書活動推進計画に基づいた取組の実施 | 学校図書館の「読書センター機能」「学習センター機能」「情報センター機能」の充実を図り、小平市の郷土学習に図書館のデジタルアーカイブを活用するなど、学校での調べ学習の充実のため、学校図書館と図書館との連携を強化していく。 |
| 7 | 継続 | 学校図書館への支援 | 仲町図書館を中心に、学校図書館の支援を行う。 ① 年間125日を上限に、学校図書館に学校司書を配置する。 ② 調べ学習用図書の特典団体貸出、図書館職員によるブックトークの実施等により授業支援を行う。 ③ 学校司書研修の充実により、学校図書館の活性化を推進する。 予算額：30,525千円 |
| 8 | 継続 | ティーンズ委員会の開催 | 10代の読書活動の推進に向け、互いに本を薦め合い、読書意欲の向上につながる環境づくりを推進する。 予算額：88千円 |

2 健やかな体の育成

【令和7年度に向けての課題】

- 市立学校では、創意工夫のある体力向上に向けた取組や、小・中が連携した体力向上の取組を行っています。令和3年度以降の体力テストの結果からは、日常的に運動をすることについての二極化が見られたことから、楽しみながら体を動かすことを通して、運動意欲の向上と運動の日常化を目指すとともに、体育科、保健体育科の授業改善を通して、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向け、健やかな体づくりを考えていくことが課題です。
- 学校給食では、安全安心で充実した給食の提供とともに、食育の推進、食物アレルギーへの適切な対応、衛生管理の徹底などについて、引き続き取り組んでいく必要があります。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|--------------------------|---|
| 9 | 継続 | 「こだいら一斉体力テスト週間」の実施と結果の活用 | 6月第1週を「こだいら一斉体力テスト週間」とし、体力テストの実施を通して児童・生徒が自らの課題を意識し、体力向上の意欲を高められるよう働きかける。 また、体力テストの結果に基づく個に応じた体力向上への指導を行い、家庭への健康に関する啓発を行うとともに、市立小・中学校が連携して取り組めるよう、体力向上に向けての情報共有や指導方法の工夫を行う。 |
| 10 | 継続 | 「楽しみながら運動プログラム」の実践 | 平成29年度に地域の協力を得て開発した「楽しみながら運動プログラム」の考え方にに基づき、各学校が児童・生徒が楽しみながら運動に取り組める活動を意図的・計画的に実施している。 運動習慣の定着を図る活動や運動の日常化や体力の向上につながる運動など、各学校の取組の更なる充実を図る。本プログラムの実施を通し、日常的に運動に親しむ意欲の向上を図ることを目指す。 |
| 11 | 拡充 | 小学校給食調理業務委託の実施 | 令和5年度までに14校の小学校給食調理業務委託を実施した。令和7年度から1校の委託を開始するとともに、令和8年度の委託開始に向け、2校の調理機器等の整備を行う。 予算額：44,816千円 |

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|--------------------|---|
| 12 | 継続 | 食物アレルギーへの適切な対応 | 「小平市立小・中学校における食物アレルギー対応方針（令和6年4月1日改訂）」に基づき、市立小・中学校における対応を徹底するため、アレルギー症状発症時の緊急対応に重点を置いた研修の受講を推進する。 |
| 13 | 拡充 | 学校給食費に関する保護者負担の軽減 | 教育費に係る保護者の経済的負担を軽減するため、市立小・中学校の学校給食費を無償化する。 また、食物アレルギー等により毎日給食代替弁当を持参する児童・生徒の保護者に対して補助金を交付する。 さらに、食材料費の上昇が続いていることから、市立小・中学校給食費会計に学校給食食料費高騰臨時対策補助金を交付し、学校給食の質を維持する。 予算額：863,829千円 |
| 14 | 継続 | 児童・生徒の生活習慣病予防健診の実施 | 定期健診で肥満度30%以上の児童・生徒を対象に、受診機会を確保するとともに医師からの適切な指導につなげるため、一定の期間内に市内の医療機関で生活習慣病予防健診を実施し、児童・生徒の健康の保持、増進に取り組む。 予算額：1,429千円 |

3 豊かな心の育成

【令和7年度に向けての課題】

- 変化の激しいこれからの社会において、多様な個性や特性、背景を有するこどもたち一人ひとりが自尊感情や自己肯定感を高め、「持続可能な社会の創り手」として心豊かにそれぞれの人生を歩む力を育成することが課題となっています。
- 市立小・中学校全校がコミュニティ・スクールであることを生かし、保護者、地域住民等と協働した教育活動を充実させ、誰一人取り残さない安全・安心な学校づくりを推進します。特別活動等の更なる充実により、児童・生徒が他者と関わりながら、考え、議論する活動を通して、自尊感情や自己肯定感を高め、集団や地域社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする豊かな心を育てます。
- 不登校児童・生徒数やいじめの認知件数は全国的に増加傾向にあり、本市においても同様の傾向が見られます。こども自らの成長・発達を支える生活指導を行うとともに、専門家の助力を得て解決を図ることができるよう、スクールソーシャルワーカーの活用をはじめ関係機関と連携し組織的に対応することが求められています。特にいじめ問題については、いじめを早期に発見、解消し、深刻化させないための取組を強化する必要があるとあり、いじめ重大事態として扱った事案については、調査において指摘を受けた点を真摯に受け止め、同種の事案の発生を防止するための取組みとして実践し、その進捗状況等を教育委員会に報告するとともに、外部有識者等による点検・評価を受け改善できるようにします。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|------------------------|---|
| 15 | 継続 | いじめ防止基本方針に基づく、いじめ防止の推進 | <p>小平市いじめ防止基本方針を踏まえ作成した各学校のいじめ防止基本方針を基に、いじめを未然に防止する取組を推進する。</p> <p>年間3回以上実施するいじめ防止授業や、児童会・生徒会が主体的に取り組む活動を中心に、自分も友だちも大切にできる人間関係の構築を促す。</p> <p>いじめ問題を広い視野で捉え、対応できる教職員を育成するため、年間3回以上校内研修を実施し、「いじめをしない、させない」学校風土を醸成する。</p> <p>「小平市いじめ問題対策連絡協議会」における協議を踏まえ、より実効性のある取組を教育委員会や学校で展開できるようにする。また、「小平市教育委員会いじめ問題対策委員会」から報告された重大事態の調査結果を踏まえ、同種の事案の再発防止に向けた取組を推進する。</p> <p style="text-align: right;">予算額：1,084千円</p> |
| 16 | 継続 | 児童会・生徒会サミットの実施 | <p>「こだいら特別活動の日」を設け、各学校での特別活動の公開授業の実施とともに、各学校の代表児童・生徒による児童会・生徒会サミットを実施し、こどもたちの自主的・実践的な態度を育む。</p> <p style="text-align: right;">予算額：31千円</p> |
| 17 | 継続 | 人権教育の推進 | <p>「自分の大切さとともに他の人の大切さを認める」という人権尊重の理念に基づき、各教科等の授業や学校行事などあらゆる機会を捉え、家庭・地域と連携しながら、児童・生徒が正しい人権意識をもつことができるよう指導する。</p> <p>また、教職員の人権感覚を高め、新しい人権課題について理解を深めて適切に対応できるよう研修会を実施するとともに、実践的な取組についての情報共有を通じて、指導力の向上を図る。</p> |
| 18 | 継続 | スクールソーシャルワーカー活用事業の実施 | <p>不登校や虐待等様々な課題を抱える児童・生徒及びその家庭に対して、福祉的な視点から関係機関との連携を構築するスクールソーシャルワーカーを市立中学校に配置し、課題の解決を図る。</p> <p style="text-align: right;">予算額：19,311千円</p> |
| 19 | 継続 | 不登校児童・生徒への支援の充実 | <p>不登校児童・生徒が、それぞれ学びや必要な支援につながるができるよう、支援体制の充実を図る。</p> <p>① 校内別室指導支援員の配置 市立中学校に在籍する不登校及び不登校傾向の生徒に対し、教室以外の居場所において、一人ひとりの状況に応じた支援を行うための支援員を配置する。</p> <p>② チャレンジクラス（不登校対応校内分教室）「上水さくら学級」の実施 市立中学校に在籍する不登校生徒が安心して学校生活を送ることができる、ゆとりある生活時程を実現し、実態に応じた支援を行うため、上水中学校で実施する。</p> <p>③ 不登校対応巡回教員の配置 市立中学校に配置した不登校対応巡回教員が、巡回拠点校及び巡回校を巡回し、不登校生徒の支援、魅力ある学校づくり及び不登校生徒の支援の在り方について助言等を行うことにより、校内における組織的な支援体制の整備について幅広く支援し、不登校の未然防止や不登校生徒の支援の充実を図る。</p> <p>④ バーチャル・ラーニング・プラットフォーム「バーチャルスペースこだいら」の実施 不登校の児童・生徒に対し、オンライン上の仮想空間を活用し、居場所や学びの場を提供することにより、学びの保障や他者とのコミュニケーションを図る機会の充実等、児童・生徒一人ひとりのニーズに合わせた支援を行い、学校復帰及び将来の社会的自立を目指す。</p> |

| | | |
|--|--|--|
| | | ⑤ 学校と家庭の連携推進事業（新規） いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など、生活指導上の課題に地域全体で取り組む教育体制を構築し、地域や学校の実態に即した効果的な取組の実現を図るため、実際に支援を行う「家庭と子供の支援員」及び「スーパーバイザー」の選定や配置を行う。 予算額：11,338 千円 |
|--|--|--|

4 自立心の養成

【令和7年度に向けての課題】

- 児童・生徒が情報化やグローバル化等、急速かつ激しく変化する時代を生き抜いていくには、学校生活や家庭、地域生活の中で発達の段階に応じた社会性や人間性を育むことが課題となっています。
- 東京都教育委員会が策定した「東京都教育施策大綱」（令和3年3月）では、「自らの個性や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる」「他者への共感や思いやりをもつとともに、自己を確立し、多様な人々が共に生きる社会の実現に寄与する」姿が未来の東京に生きるこどもであると示されています。

このことを受け、小平市では、こどもたち一人ひとりが主体的に社会の形成に参画する態度を育み、社会課題について関心を持ち、未来の社会を良くするために何か行動しようと思う児童・生徒を育成するため、キャリア教育や安全教育、情報活用能力等の充実を図っています。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|--------------------------|--|
| 20 | 継続 | 小・中学校におけるキャリア教育の推進 | 児童・生徒が、キャリア教育に関わる諸活動について、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう、ポートフォリオ（キャリア・パスポート）を活用し、キャリア教育の充実を図る。 |
| 21 | 継続 | 実践的な安全教育の実施 | 児童・生徒の防災・減災意識や危険回避能力の向上を図るため、緊急地震速報受信機の警報音を使った避難訓練、保護者や地域の方を交えた避難訓練及び「防災ノート」等の防災教育関連資料を活用した児童・生徒への指導や家庭への啓発等、より実践的な体験型の防災、防犯、交通安全に関する取組を、警察署、消防署等の関係諸機関との連携を図りながら実施する。 |
| 22 | 継続 | 小・中学校における情報教育・情報モラル教育の推進 | 「小平市立学校における情報活用能力の育成指針」に基づき、学習者用端末や図書等の資料を利活用して、発達段階に応じて計画的に児童・生徒の情報活用能力を育成する。 また、インターネットの危険性や安全な利用方法、情報モラル等の知識を身に付けることが一層重要になることから、「SNS学校ルール」、「SNS家庭ルール」の見直しを図り、児童・生徒の実態に応じた情報モラル教育の充実を図る。 |

5 一人ひとりを大切にし共に学ぶ教育の充実

【令和7年度に向けての課題】

- 特別な支援を必要とする児童・生徒の生きる力を高め、生活や学習上の困難を改善するためには、地域で育み、支える関係づくりや、一人ひとりの特性に応じたつながりのある指導・支援、豊かな学びを実現する環境整備を行う必要があります。

小平市では、令和3年3月策定の「小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）前期計画」に基づき、「ライフステージに応じた特別支援教育推進体制の整備」、「関係機関の連携によるネットワークの構築」、「理解・啓発、相談体制の充実」の3つの基本指針に沿って、5年間の計画において特別支援教育を総合的に推進します。

当該計画に基づき、各事業内容と支援体制を充実させ、誰もが生き生きと過ごせる共生の地域づくりに向けた特別支援教育の充実が求められています。

- 医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律に基づき、市立小・中学校に在籍する日常的に医療的ケアを必要とする児童・生徒に対し、安心して学校生活を送ることができるよう、安全で適切な医療的ケアを実施するため個別、丁寧に対応する必要があります。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|-----------------------------|--|
| 23 | 新規 | 小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）後期計画の策定 | 現行計画が令和7年度末で終了するため、令和8年度から令和12年度までを対象期間とする小平市特別支援教育総合推進計画（第二期）後期計画を策定する。 予算額：3,795千円 |
| 24 | 継続 | 就学支援委員会の開催 | 特別な支援に対する児童・生徒や保護者のニーズの多様化や、発達障がいなどに関する相談の増加に対応するため、引き続き、臨床心理士等の心理職の就学相談員を配置する。 予算額：7,696千円 |
| 25 | 継続 | 小・中学校自閉症・情緒障がい特別支援学級の運営 | 児童・生徒が抱える生活や学習上の困難さを踏まえ、一人ひとりの特性に応じた学びの場を提供するとともに、義務教育9年間を通した切れ目のない支援を行うため、令和6年4月に開設した小平第四小学校自閉症・情緒障がい特別支援学級「こげら学級」の定着を図るとともに、令和7年4月に小平第二中学校に自閉症・情緒障がい特別支援学級を開設する。 また、通学支援として、小学校において通学バスの運行を行う。 予算額：13,122円 |
| 26 | 継続 | 医療的ケア児に対する看護師配置の実施 | 「小平市立学校における医療的ケアの実施に関するガイドライン（令和5年10月策定）」に基づき、市立学校に在籍する日常的に医療的ケアを必要とする児童・生徒に対し看護師を配置し、安心して学校生活を送れるよう支援するとともに、保護者の負担軽減を図る。 予算額：9,597千円 |

6 教員の資質向上

【令和7年度に向けての課題】

- 教員は、公私を問わず、自らを律し、児童・生徒、保護者、市民に対して、小平の教育全体の信頼を確保していく必要があります。

小平市立学校の教員は、サービス事故を決して起こさないという高い倫理観をもって教育活動に臨むことが求められています。そのためには、一人ひとりの教員の状況に基づいた指導が求められています。

- 授業力や学級経営力等教員に求められる資質・能力を、経験年数等に応じて計画的に育成し、教員一人ひとりの力量を高める必要があります。
- 学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、求められる役割が拡大する中、教育活動の更なる充実が求められています。

こうした状況の中で、全国的に教員の長時間労働が大きな問題となっています。小平市は、令和元年12月より出退勤システムを導入し、教員の労働時間を把握しています。教員一人ひとりの心身の健康保持は、日々の教育活動の質にも関わる重大な問題です。教員の長時間労働の改善を図り、学校教育の質の維持向上に取り組むことが必要です。

- 教員が教育活動に専念できるよう、心身共に安全、健康で、快適に働くことができる環境の整備が必要です。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|------------------|---|
| 27 | 継続 | サービス事故再発防止の取組の実施 | <p>教育公務員には、専門的知識はもとより豊かな人間性と使命感が求められているということを十分に理解させ、倫理観や規範意識等をより一層高めるため、サービス規律の徹底を図り、サービス事故を未然に防止するため、各種取組を確実に実施する。</p> <p>① 「小平市立学校サービスに関わるチェックシート」の活用 情報モラル等近年増加傾向にある課題や、各時期に起こりやすい事故に対応できるよう作成されたチェックシートによる確認を全教員が毎月確実に実施する。</p> <p>② O f f – J Tとしての職層に応じた研修の実施</p> <p>③ 学校における指導及び研修の実施 日常の指導に加え、校内研修を年3回実施する。</p> <p>④ 教育委員会と学校の連携 学校訪問の際に、各学校のサービス事故防止の取組状況を把握し、学校の状況に応じた改善策を学校の管理職と協議する。</p> |
| 28 | 継続 | 体験型地域理解研修の実施 | 新規採用教員等を対象に、「体験型地域理解研修」を実施し、地域理解や教材開発につなげる。 |

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|-------------------|---|
| 29 | 拡充 | 学校における働き方改革の推進 | <p>学校における働き方改革を推進し、教職員の長時間労働の改善及び業務負担の軽減、学校教育の質の維持向上を図る。</p> <p>① 市立学校等で勤務する教職員の出退勤システムによる在校時間の把握 出退勤システムにより、市立学校等で勤務する教職員の在校時間を適切に把握し、働き方改革の推進につなげる。</p> <p>② 学校を支える外部人材の配置の拡充 外部人材の活用により、教職員の負担軽減及び組織体制の充実を図る。</p> <p>ア スクール・サポート・スタッフ（配置拡充） 一般教員が行う授業等の準備を補助する。</p> <p>イ 副校長補佐（配置拡充） 副校長が固有業務に注力できる環境を整備するため、副校長の業務を補助する。</p> <p>ウ 特別非常勤講師 市立小学校で、高度な専門性を生かし、一部の授業を行う。</p> <p>エ エデュケーション・アシスタント 市立小学校で、特定学年の担任の業務を補助する。</p> <p style="text-align: right;">予算額：276,626 千円</p> |
| 30 | 継続 | 学校における労働安全衛生体制の整備 | <p>教職員の健康を良好な状態に維持し、充実した教育活動を継続的に実施するため、引き続き医師による面接指導及びストレスチェック等を実施する。</p> <p style="text-align: right;">予算額：912 千円</p> |

7 学校の経営力向上

【令和7年度に向けての課題】

- 小・中学校においては、校長、副校長、主幹教諭、指導教諭、主任教諭、教諭、事務職員という組織体系で学校組織が成立しており、そこには校長の強いリーダーシップが求められています。
家庭、地域から教育活動への理解と参画を得て、質の高い学校経営を実践するためにも「開かれた学校づくり」を積極的に推進し、保護者、地域の方の参画型授業を実施するなど、学校教育への信頼や理解を得ることが求められています。
- 中学校における部活動は、学校教育活動の一環として重要なものです。小平市では、「小平市立学校に係る運動部活動の方針（平成30年度策定）」及び「小平市立学校に係る文化部活動の方針（令和元年度策定）」に基づき、中学校における部活動の維持及び円滑な推進や教員の働き方改革に資する取組を進めています。
小平市では、令和5年度に小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会（以下「検討委員会」という。）を立ち上げ、これからの取組の方向性を検討しました。検討委員会における協議等を踏まえ、令和6年度に「部活動地域連携・地域移行の方向性」を策定しました。今後は具体策やモデル事業についての検討や試行が必要になります。
- 教育を取り巻く課題は複雑化・高度化しています。いじめや保護者とのトラブル、体罰、教員同士のトラブル等を早期に解決し、安定した学校経営及び教育の質の向上を図るため、専門的知識を有する人材や専門機関との連携が必要です。
- こどもたちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校と地域の連携・協働の重要性が増していることから、地域とともにある学校づくりを推進する必要があります。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|-----------------|---|
| 31 | 拡充 | コミュニティ・スクールの推進 | コミュニティ・スクールに指定されている25校においては、これまでの成果や課題を踏まえ、教育活動の充実と地域とともにある学校づくりをさらに推進していく。 令和7年度に新たに指定される2校を加え、市立小・中学校全校がコミュニティ・スクールに指定されることを受けて、さらに地域とともに学校経営を展開できるよう学校経営協議会の活動を支援し、充実させる。 予算額：10,949千円 |
| 32 | 拡充 | 部活動指導員の配置 | 部活動の維持及び充実とともに、教員の負担軽減を図るため、部活動指導員を市立中学校に配置する。(配置拡充) 予算額：24,766千円 |
| 33 | 拡充 | 部活動外部指導員の配置 | 部活動の充実及び質の向上を図るため、高い専門性を有する部活動外部指導員を配置する。(配置拡充) 予算額：8,460千円 |
| 34 | 新規 | 部活動地域連携・地域移行の推進 | 部活動地域連携・地域移行をより実践的に展開するため、外部の有識者等を交えた新たな協議体を設置し協議を進める。 予算額：504千円 |
| 35 | 継続 | 法律相談の実施 | 教育に関わる様々な問題や課題に対して、弁護士（スクールロイヤー）による法的見地からの助言・指導により、早期解決を図る。 予算額：1,639千円 |

8 家庭教育への支援

【令和7年度に向けての課題】

- 核家族化や地域の人間関係の希薄化に伴い、親子が地域や社会で様々な関わりをもちながら成長発達していくことが難しくなっています。親の育ちを応援する学びの場や、子育て世代が相互交流を図る機会の提供、また、こどもと保護者が絵本を介してふれあうきっかけの提供など、家庭教育への支援が求められています。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|----------------|---|
| 36 | 継続 | 子育て支援に関する講座の実施 | 家庭教育の向上及び子育て支援につながる取組として、子育ての不安解消や子育て世代の仲間づくりにつながる講座を実施する。 予算額：1,408千円 |
| 37 | 継続 | ブックスタートの実施 | こどもと保護者が、絵本を介して心ふれあうひとときをもつきっかけを作るとともに、将来にわたり読書に親しむ環境を整えるため、絵本の読み聞かせのきっかけとなるよう本を手渡す「ブックスタート」を行う。 予算額：1,524千円 |

9 地域総がかりでの教育の推進

【令和7年度に向けての課題】

- 青少年対策地区委員会の活動等を通して、地域全体でこどもを育む風土を醸成し、地域の人々の交流や活力の創出を図ることが求められています。
- ボランティアを活用した授業支援、補習、部活動支援、図書の整理・修理、緑化、パトロール等、学校の学習支援・環境整備支援を推進するために、学校と地域を結ぶ地域教育コーディネーターやボランティアの育成について、継続的な取組が必要です。
- こどもたちに、放課後や休日等の安全・安心な居場所として、学習・スポーツ・文化活動・世代間交流等の機会を提供し、活動の充実を図っていくことが求められています。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|---------------------|--|
| 38 | 継続 | 小平地域教育サポート・ネット事業の推進 | 地域住民等のボランティア及び地域教育コーディネーターの養成やスキルアップを図るため、研修や、学校が必要とする講座を実施する。 また、コーディネーターの育成等を図るため、統括コーディネーターを配置する。 市立小学校新入学児童の保護者にボランティアの周知パンフレットの配布等を行い、地域と学校の円滑な連携を図る。 予算額：13,352千円 |
| 39 | 継続 | 放課後こども教室の推進 | 市立小学校全校で、放課後等の安全・安心な居場所として、地域の方々の参画を得て、学習・スポーツ・文化活動等の様々な体験や、世代間交流の場を提供する。 予算額：45,125千円 |

10 教育環境の整備

【令和7年度に向けての課題】

- 学校施設は小平市の保有する公共施設の約6割を占めており、その多くが昭和40年代から50年代にかけての児童・生徒急増期に整備されたものです。
そのため、経年劣化により老朽化した施設の機能回復や、近年の猛暑等に対応した設備の設置などによる良好な教育環境の確保が必要となっています。また、災害時の防災拠点として備えるべき防災機能の整備も求められています。
このことから、現在のニーズに加え、将来の需要をも見据えた計画的な改修や更新が重要となります。
- 発達障がいや配慮を要する児童・生徒の在籍人数が増加している現状や、小学校における全学年への35人学級制度の導入のほか、就学人口の急増等により、一部の学校では教室不足が生じる見込みであるため、増築等の計画的な対応が必要となります。
また、増室した普通教室で学習者用端末を利用するための環境整備も必要です。
- 令和2年度に購入した一人1台の学習者用端末は、使用開始から4年が経過し、経年劣化による故障への対応も増えていることから、新たな端末への更改を行います。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|---------------|---|
| 40 | 継続 | 学校大規模改造工事等の実施 | <p>経年劣化により低下した施設機能を回復し、教育環境の質的向上を図る。</p> <p>[令和7年度の実施校及び工事内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一小 トイレ洋式化工事 ・二小 給食室空調設備設置設計 ・三小 給食室空調設備設置設計 ・四小 給排水設備更新工事 ・五小 トイレ洋式化工事 ・七小 給水設備更新工事 ・九小 校舎外壁改修・屋上防水工事 ・十小 トイレ洋式化工事 ・十四小 トイレ洋式化工事 ・花小 トイレ洋式化工事 ・上宿小 トイレ洋式化工事 ・一中 トイレ洋式化工事、校舎外壁改修・屋上防水設計 ・五中 校舎外壁改修・屋上防水工事 ・上水中 トイレ洋式化工事 ・花南中 トイレ洋式化工事 ・全小・中学校 樹木診断 <p style="text-align: right;">予算額：659,602千円</p> |
| 41 | 継続 | 学校施設の更新 | <p>① 小平第十一小学校 令和3年度に策定した基本計画及び令和5年度に策定した基本設計方針に基づき、令和6年度から令和8年度にかけて基本設計及び実施設計を行う。</p> <p>② 小平第十三小学校 令和5年度に策定した基本計画に基づき、令和6年度から令和9年度にかけて基本設計及び実施設計を行う。</p> <p style="text-align: right;">予算額：68,157千円</p> |
| 42 | 新規 | 学習者用端末の更改 | <p>国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度に購入した1人1台の学習者用端末を更改します。令和7年度中に端末を調達の上、令和8年度から使用を開始します。</p> <p style="text-align: right;">予算額：64,440千円</p> |

11 多様な学びをつなぐ生涯学習の推進

【令和7年度に向けての課題】

- 年齢、性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、誰もが社会に参画する機会をもつことができるよう学習機会を提供することが求められています。
- 公民館は、学習施設としてだけでなく、市民との協働の拠点、地域のコミュニティづくりの拠点としての役割を担うことが求められています。さらに、公共施設マネジメントの取組の中で他の公共施設との複合化が計画されており、地域コミュニティの拠点としての「公民館の在り方」について検討することが必要です。
- 地域課題が複雑化・多様化している中、図書館には地域の情報拠点としての役割を果たすためのサービスが求められています。そのためには、地域資料の充実やデジタルアーカイブ化による情報発信、レファレンスサービス等により利用者が求めている資料・情報を的確に提供できる取組が必要です。
- 図書館の非来館サービスの充実や読書バリアフリーの観点などから、インターネット上で本や雑誌などの様々な資料の閲覧ができる電子図書館の取組が求められています。
- 小平市公文書等の管理に関する条例に基づき、歴史公文書を将来にわたって確実に保存するとともに、市民共有の知的資源として市民が主体的に利用できるようにすることが必要です。
- 「鈴木遺跡保存活用計画（令和4年度策定）」に基づき、鈴木遺跡のより有効な保存活用を進めていきます。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|--------------------------|---|
| 43 | 継続 | 非核平和学習事業の実施 | 戦後80年・小平市非核平和都市宣言20周年の節目に当たる令和7年度は、小・中学生広島平和学習の参加人数及び原爆写真パネル等展示を拡充する。 予算額：439千円 |
| 44 | 拡充 | 公民館主催オンライン講座等の拡充に向けた環境構築 | 公民館主催講座や会議等をオンラインで開催できる環境を整備するため、新たに分館7館に5G対応ルーターを設置する。 予算額：2,430千円 |
| 45 | 継続 | 公民館事業企画委員会による講座企画 | 公民館を学習施設としてだけでなく、市民との協働の拠点、地域のコミュニティづくりの拠点として機能させるため、各館に設置している公民館事業企画委員会を通して、地域のリーダー等、市民と顔の見える関係を築き、学びを通じた「人づくり、つながりづくり、地域づくり」の循環構築する講座や市民の意向が反映された講座の企画を進める。 |
| 46 | 継続 | 公民館の在り方の検討 | 市の公共施設マネジメントの取組の中で、小学校を核とした地域コミュニティの醸成を図るという方針のもと、公民館などの地域施設を含めた複合化の検討が行われており、中央公民館、小川西町公民館、花小金井北公民館については、複合化に向けて事業が進んでいる。 公民館が市民との協働の拠点、地域コミュニティづくりの拠点としての機能を生かせるような在り方を検討する。 |
| 47 | 継続 | ハンディキャップサービスの実施 | 対面朗読や宅配貸出、録音図書・点字図書の郵送貸出の実施など、ハンディキャップサービスを実施する。 予算額：1,098千円 |

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|----------------------|---|
| 48 | 継続 | 特定歴史公文書の収集・整理・保存 | 小平市公文書等の管理に関する条例に基づき、歴史的に価値のある重要な公文書を歴史公文書と位置付け、整理・保存等を行い、将来にわたって確実に保存するとともに、目録を作成・公開し、市民が主体的に利用できるようにする。 予算額：519千円 |
| 49 | 拡充 | 図書館におけるWi-Fi環境整備 | 既設の5館に加え、新たに上宿図書館、津田図書館、大沼図書館に増設し、全図書館で5GのWi-Fi環境を整備する。 予算額：831千円 |
| 50 | 拡充 | デジタルアーカイブの拡充 | こだいらデジタルアーカイブに市の計画や報告などの刊行物や、小平市の各種地図、玉川上水風景写真、鈴木遺跡3D資料、海岸寺山門3D資料などを追加し、次世代に地域の歴史を伝え、市民の地域学習や情報習得の機会を拡大する。 予算額：6,043千円 |
| 51 | 新規 | 電子図書館サービスの開始 | 非来館サービスの充実と読書バリアフリーの推進のため、図書館システムの更新時期に合わせ、電子書籍、オーディオブック、電子雑誌等の閲覧が可能な電子図書館サービスを開始する。 予算額：11,169千円 |
| 52 | 継続 | 国指定史跡鈴木遺跡における保存活用の推進 | 国指定史跡鈴木遺跡の今後の保存活用の基本的な方針を定めた「鈴木遺跡保存活用計画」に基づき、史跡指定地の整備を行うため、史跡整備基本計画の策定を行う。 また、鈴木遺跡資料館においてこれまでの経過と今後の見通しについての市民向けパネル展示（オープンハウス）を開催するなど、市民意見を伺いながら整備を進めていく。 予算額：6,808千円 |
| 53 | 新規 | 発掘調査写真のデジタル化 | 鈴木遺跡は発掘調査が行われるようになってから50年を経過した。撮影されたフィルム写真について、劣化が深刻化する前にデジタル化を行うことで、学術的に貴重な情報を保存するとともに、デジタルアーカイブの拡充を図る。 予算額：2,090千円 |

12 生涯学習を通じた地域づくりの推進

【令和7年度に向けての課題】

- 地域の学習資源の活用や多様な学習機会の創出により、地域の自然、歴史・文化や芸術活動に親しみ、理解を深め、ふるさとを愛する心をもつ子どもを育てることが求められます。
- 成熟社会における生涯学習のかたちを実現するため、学習活動の成果を他の人や地域に還元することが望まれています。また、行政と連携・協働して取り組む地域の担い手が育つ必要があります。

【主要事業】

| No. | 区分 | 事業名 | 事業内容 |
|-----|----|---------------------------|---|
| 54 | 継続 | 地域と連携したジュニア向け講座の実施 | 公民館において、ジュニア向けに地域の多様な主体と連携を図りながら、様々な体験を通じた地域への興味、関心を深めるきっかけづくりにつながる講座を実施し、受講後も継続して公民館を利用してもらえる仕組みづくりに取り組む。 予算額：1,320千円 |
| 55 | 継続 | 地域と連携した講座や地域の資源を活用した講座の実施 | 地域で活動する市民の人材育成や団体の活性化等の視点を踏まえ、市民が学び合うことを基本に、地域と連携・協力を図りながら、地域における様々な課題の解決や、より豊かな地域のコミュニティづくりにつなげるための講座を実施する。 また、小平の文化、土地柄等、市内のあらゆる魅力ある資源も活用し、地域への愛着をもってもらえるきっかけづくりとなる場を提供する。 |

